

内田を世界レベルに押し上げた“察知力”

身長176cmの内田はブンデスの選手としては小柄であり、67kgという体重はリーグ最軽量クラスだった。それにも関わらずディフェンスラインの一角を担い、現地で“リーグ屈指のSB（サイドバック）”と称されるまでに活躍できたのは、体格差をカバーして余りある明晰な頭脳があったからです。

内田のプレーはとにかくクレバーだった。高い戦術理解力に加え、敵・味方の少しの所作から次のプレーを読む洞察力は群を抜いており、気の利いたプレーで味方をサポートしていました。

ビルドアップ時はボールを持った味方の様子、相手の守備のやり方をよく観察し、サポートの位置を微調整。ワンタッチ目で縦に運んでスピードアップするのか、それとも一度止めて組み立て直すのかといった判断が抜群で、サイドバックながら攻撃のリズムを作る役割を担った。ピッチ上の“空気を読む”ことに関して天才的で、日本代表でも本田圭佑や岡崎慎司ら多くの選手が「やりやすい」「篤人が入るとボールが回る」とその能力を絶賛していました。

この内田の“察知力”は、ディフェンスの局面でも存分に発揮された。危ない場面を作られる前にいち早く相手の狙いを察知し、ポジションを微調整。駆け引きで常に先手を取っていました。

時には近くの味方が死角を突かれそうになっていることすらも察知し、必要とあらば迷わず自らのマークを捨て、より危険なエリアをカバー。仮に奪いきれなくとも、シュートのタイミングを一拍遅らせるなどして献身的にチームを支えました。

当時の日本代表も、内田のこの見えないファインプレーに救われた場面は数知れない。

得点やアシストのように数字として残るプレーではないが、内田の気の利いたプレー、的確なポジショニングは幾度となく味方を助けてきました。

“察知力”とは

周囲の状況や人の気持ち、物事の変化などを素早く感じ取る能力。直感や観察力、共感力などがかんけしており、相手の表情・言葉・行動などから、その裏にある意図や感情を読み取る力を指します。

サッカーでの“察知力”

プレー中に起こる状況の変化や相手の意図、自分に訪れるチャンスなどをいち早く感じ取り、的確に反応する力を指します。これはサッカー選手にとって非常に重要な能力の一つです。